

この年は

- この年のおもなできごと
- この年の部の構成
- この年の思い出
- 春、秋リーグ戦記録
- 個人戦記録

おもな記号

数字を○で囲む(⑥) = 勝ちを示す

◎ = フォール勝

○ = 判定勝

⊖ = 大差判定勝

△ = 引き分け

分 = 引き分け

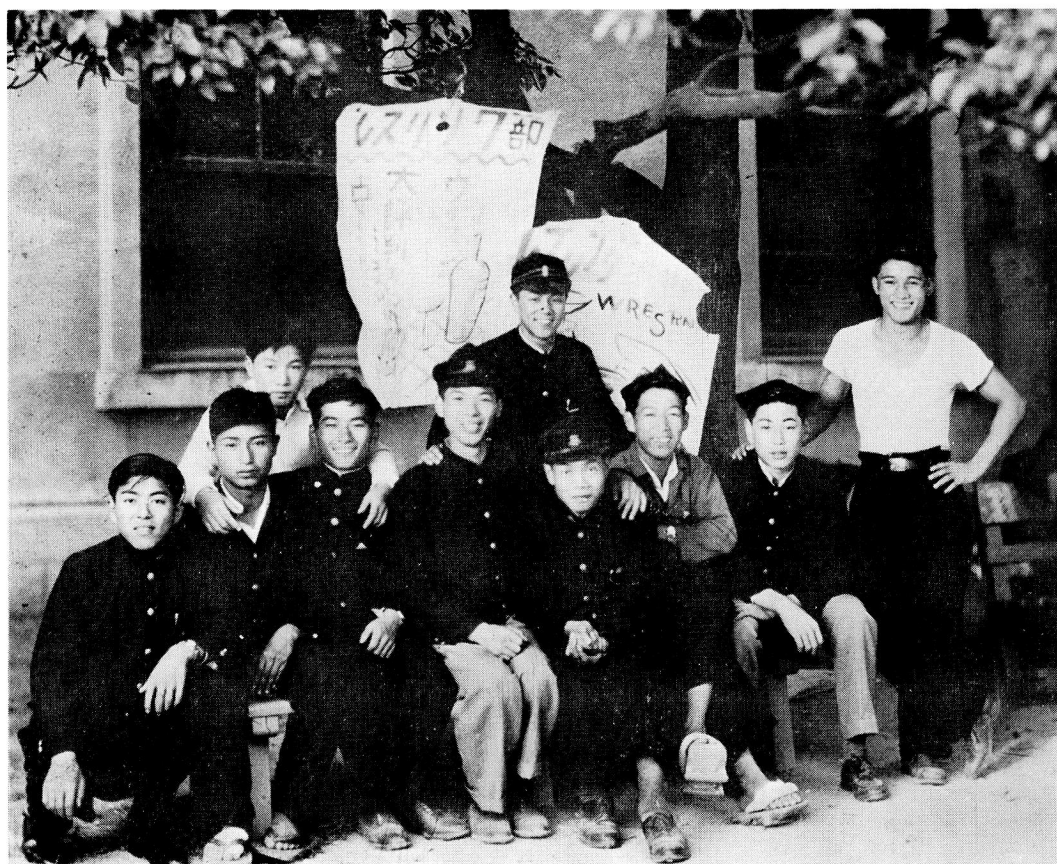
× = コーション数

失 = 失格

両失 = 両者失格

23年

- 部 創 設
- 関西選手権大会初出場
- 安川健次、同上大会フリー・Fで3位



部 長

監 督

コ ー チ

主 将 山 本 雅 之

副 将

主 務

学連委員

4

3

2 山 本 雅 之

予 科 安 川 健 次、宇 賀 照 夫、木 村 勝、古 沢 勲
友 田 次 朗、田 中 清 昭、東 条 敏 夫

この年の思い出・23

木村 勝

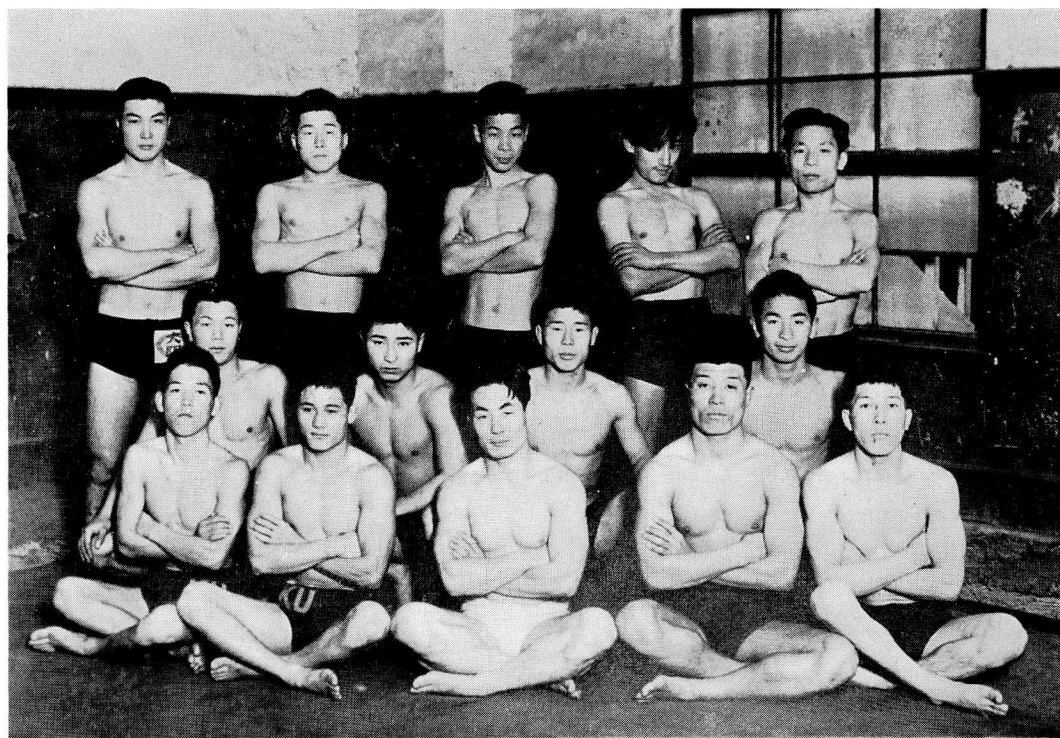
私とレスリングの出会い、不思議な取り合せだと今だに思っております。

昭和23年、旧制学部から新制学部と移り変わっていく過渡期の最後の大学予科生として入学をしました。その戦後の荒廃した世相の中で、若き血を踊らせ、希望に満ちた夢を抱きつつ、大学生としての一步を踏み出しました。その時、偶然に遭遇したのが、小学校6年間、同じ組で学んだ宇賀君との出会いが、そもそもレスリングとつながる結果になりました。高校時代は、大鉄高校野球部の捕手として、後の関大野球部のエースとして活躍した網投手とバッテリーを組み、甲子園を志したのですが、大学に入ってからは何分にも身体にも恵まれず、また素質もないために運動部に入ることをあきらめました。宇賀君を通じて、安川・友田・田中・東条・古沢、各君とのつながりができて平凡な毎日を送っていました。そうするうちに誰が云うともなく、大学生活の中で何かを残していかないかという意見が出ました。そして、大阪市立高等学校時代の相撲部で、各高校大会に於いて活躍した宇賀・安川両君から、当時まだ関大体育会の中でレスリング部がなかったので、部を創設してはどうかという話がありました。幸い大阪に於いて唯一の高校レスリング部を有していたのが大阪市立高等学校で、両君の出身校でもありましたのでかなり具体的に進行しました。何分にも大学内ではかけ出しでしたので、創部までなかなかいたりませんでした。そのような時に、当時体育会に於いて拳法部現役選手として活躍中の山本雅之先輩にめぐり会うことにより、一気に創部の運びになりました。新設の部については部室もなく、練習場もないままに、グラウンド横の芝生の上で練習をした思い出もありました。そのような毎日を繰り返すうちに、山本先輩のなみなみならぬ御努力により練習場を確保して頂き、部活動を開始することが出来ました。こうした予科生活を経て新制大学にきりかわり、昭和24年に大阪市立高校教諭の小田原先生のきも入りで、明治大学OBの村田恒太郎氏を監督に迎えることになりました。そして、下村・宇田・梶原先輩、並びに大阪市立高校より押立・木村・黒木が入部されて名実共に戦後復活第1期の黄金時代をむかえる基礎が出来上りました。リーグ戦に出場できるメンバーの名を各クラスにわたって提出できるようになった時の喜びは、当時のマネージャーとして忘れることのできない大きな喜びの思い出でありました。こうした苦しい中に新しいものを、生み出す喜びは、私の今日までの仕事に、又生活に大きく人生経験の一端として活用させて頂いております。

つたない思い出記ではありますが、私は、1つの共通したものを通じて、それぞれの目的に向かって社会に貢献しよう人間造りが、私自身レスリング部に籍をおくことによって今日の私がある様に思われます。関大レスリング部諸先輩、並びに各後輩諸君の益々の御健闘をお祈りして創設記にかえさせて頂きます。

24年

- ・ 沢村栄治先生、部長に就任する
- ・ 村田恒太郎氏、監督に就任する
- ・ リーグ加盟
- ・ 春季リーグ戦初優勝
- ・ 秋季リーグ戦第2位



部 長 沢 村 栄 治

監 督 村 田 恒太郎 (明大OB)

コ ー チ

主 将 下 村 正 三 (現 木村正三)

副 将

主 務 木 村 勝

学連委員 木 村 勝

4 山 本 雅 之

3

2 下 村 正 三、字 田 文 三

1 安 川 健 次、字 賀 照 夫、木 村 勝、古 沢 勲
友 田 次 朗、田 中 清 昭、東 条 敏 夫、押 立 吉 男
木 村 晴 茂、黒 木 武 臣

この年の思い出・24

木村正三(旧姓 下村)

30年前に思いを走らせます。青春、「レスリング」とは、一言、「苦しい」で表現される様に思われるのです。しかし、脳裡をかすめるのは、何故か、楽しい懐かしさが先走りするので、不思議でなりません。

ペンを走らせようと焦燥の念にかられるのですが、裏腹に、泣き、笑い、苦しむ部員の顔々が、試合場、合宿所などでの練習風景にと果てしなく広がり、ペンを休ませる事がしばしばです。

当時、昭和24年の世相の一端である食糧事情においては、配給制度が行なわれており、栄養も充分に摂取する事もできず、また、経済状況も悪く、父兄に負担を掛けない様にと各自がアルバイトをやりながらの練習でした。

全日本選手権大会に出場するための上京にしても、食券(米に変わる)を持参しなければ、旅館にも泊まれない時世で、少しばかり良くなった頃でも、帰阪の車中の食事はコッペパン1個、飲物は空ビンに水を入れて持込みました。また、練習の帰りに、たまのお好み焼きを食べるにしても、1人1枚という訳にはゆかず、1枚のお好み焼きを何等分かにして食べるというありさまでした。

その練習場ですが、部が創設された当初の春は、千里山学舎にありました。アルバイトの関係もあって練習も思いにまかせず、止むを得ず、天六学舎の地下の一室に練習場が設けられたのです。コンクリートの床の上に畳を敷き、マットといってもトラックなどに使用されている雨除けのシートで、目が荒く、すり傷の最大の原因でもありました。薄暗く、埃っぽい、寒々とした中で、若い力「エネルギー」が毎日、毎日ぶつかり合い、燃焼していたのです。

引っ越した当時は、部員の顔もまばらで、私唯1人の練習という日もあり最悪の実情でした。村田監督との練習、「シゴキ」のみで終る日が続き、孤独、シゴキ、主将としての重責に、唯、耐え忍ぶ1年であった様に覚えています。

こんな事がありました。それは、夏期合宿における四国・三本松での事です。或る日、部員の1人が私に「最中」をくれたのです。が、食べた瞬間、頭の中を何かがかすめました。口に入れる！かむ！固い物を感じる！「睡眠薬だ」と同時に、「先輩、砂糖の固まりですよ」という言葉が返ってきました。結果は、全く記憶にないのです。また、時計の針を細工して、練習時間の短縮を企てたり、私1人に総当りを強いるという事もありました。

このように、合宿風景にも大きな変化を見せ始め、全員が感じている「レスリング」を膚を通じてお互いに確め合い、生涯の思い出がこの合宿地で生まれているのでした。やがて、関西大学レスリング部の伝統として、何かが受け継がれ、何かが生まれる事を願い、耐え忍ぶ主将から飛躍する主将を期待して、道を譲り、夢を託す事になったのです。

これを書くにあたり、あまりに多くの事が思い出され、意図する事を充分に表現できませんでした。が、レスリングを膚で感じた、と同様に、理解して下さる事を期待します。

24 春 (24年 5 月 8 日、西宮体育館)

関大 ⑧ — 1 同大

関学 ⑧ — 1 同大

関大 ⑤ — 4 関学

主要戦個人勝敗表

関大 ⑤	—	4	関学
F 安川 ◎	9 分20秒		薩摩
F 宇賀	8 分10秒	◎土井	
B 押立 ◎	9 分33秒	中野	
B 木村(晴) ○	—	佐野	
F e 黒木 ◎	9 分50秒	河村	
F e 木村(勝)	不戦	◎野田	
L 友田	4 分10秒	◎島津	
L 大野	—	○堂本	
W 下村 ◎	5 分57秒	山崎	

順位

- 1 関大 2勝
- 2 関学 1勝1敗
- 3 同大 2敗

24 秋 (24年11月17日、西宮体育館)

関大 ⑥ — 3 同大

関学 ⑥ — 3 同大

関学 ⑤ — 4 関大

主要戦個人勝敗表

関大 4	—	⑤	関学
F 安川 ○	—		佐野
F 押立 ◎	—		土井
B 黒木	—		○野田
B 木村 ○	—		中野
F e 大野 ○	—		河村
F e 古沢	—		○堂本
L 井本	—		◎島津
L 藤原	—		◎榎山
W 下村	—		◎山崎

順位

- 関学 2勝
- 関大 1勝1敗
- 同大 2敗

24 個人戦

関西選手権大会	フリー・F	押立 吉男	1 位
	// ・F	安川 健次	2 位
	// ・B	木村 晴茂	1 位
	// ・F e	黒木 武臣	2 位
	// ・L	下村 正三	1 位
	// ・W	大野	2 位

25年

- 春季リーグ戦優勝（2回目）
- 秋季リーグ戦第2位



部 長 沢 村 栄 治

監 督 村 田 恒太郎

コ ー チ

主 将 下 村 正 三 (現 木村正三)

副 将

主 務 木 村 勝

学連委員 木 村 勝

4

3 下 村 正 三 (現 木村正三)、梶 原 太平衛

2 安 川 健 次、宇 賀 照 夫、木 村 勝、古 沢 勲
友 田 次 朗、田 中 清 昭、東 条 敏 夫、押 立 吉 男
木 村 晴 茂、黒 木 武 臣

1 溝 畑 武 夫、江 南 務、宮 本 皖 司

この年の思い出・25

宇賀照夫

昭和25年春季リーグ戦は、大阪YMCAで開催された。当時フライ級の斗将、安川君（昭和26年度、主将、昭和50年、物故）が、練習中、右肩骨折の怪我をした。勿論ドクターストップであった。吾々は、関学に、このポイントゲッターの怪我を、ひた隠しにしていたが、敵もさるもの、関学に逸早く、その情報は伝わっていた。メンバー交換は敵も、味方も、安川君の出場が大きく勝利を、左右するため、出場の可否が大問題であった。安川君は、自から、試合出場を申し出て、隻腕よく関学田村君を、一瞬のタックルから、フォール勝をおさめた。因に、この「関：関」戦は、5対4で関大の勝利であった。

「戦後、第1回の日米対抗、大阪大会」、昭和25年は、敗戦後、日本国内における、スポーツの国際交流が、初めて認められた年であった。同年5月の日米体操に、引き続き7月に、日米対抗レスリング国際大会が、東京をはじめ、各地で盛大に行なわれた。7月29日、甲子園プール、特設リンクに、有料、3,500人の大観衆を集めた「全日本対米国の大阪大会」は、当部、村田恒太郎監督は、フェザー級、ライト級に下村主将（現、木村正三氏）、フライ級押立君の3人が、全日本代表選手として出場、対抗戦は、2対3で惜敗したが、押立君は、「ロンドン・オリンピック」フライ級第2位のクリステンセンに、判定勝を得た、勝利の青旗3本を、見た瞬間、疲労のため、失心し、山本雅之先輩（現OB会々長）に、介抱される仕末でした。

しかし、この一戦は押立君の、レスリング生活のながで、終生、忘れられない感激であったにちがいない。

この日米大会は、雑誌「平凡」のグラビヤに、大きく紹介されたことをはじめ、報道機関に、大きく取り上げられ、日本全国に、関大レスリング部の存在を、しらしめたものであった。

25 春	25 秋	25 個人戦
順位	順位	関西選手権大会
1 関大	1 関学	フリー・F 押立 吉男 1位
2 関学	2 関大	〃・B 木村 晴茂 3位
3 同大	3 同大	〃・F e 宇田 文三 2位
		〃・L 下村 正三 2位
		全日本選手権
		フリー・F 押立 吉男 3位
		〃・L 下村 正三 5位